

第2学年 A組 社会科学学習指導案

日 時：令和元年 6月 29日（土）公開 1
 場 所：2年 A組 教室
 指導者：中 村 仁

- 1 単元名 SDGs の視点で世界や日本の諸問題について考える
 【地理的分野】（2）日本の様々な地域 イ世界と比べた日本の地域的特色
 （ウ）資源・エネルギーと産業 （エ）地域間の結び付き

2 授業の構成

（1）教師と教材

2019年6月28日から開催されるG20大阪サミットの開催に向けて、長野県軽井沢町で開かれた「持続可能な成長のためのエネルギー転換と地球環境に関する関係閣僚会合」が6月16日、海のプラスチックごみ対策の国際枠組み構築に合意し、閉幕した。環境相は、さらに大阪市で開かれるG20サミットで、議論を深める考えを示しており、「2050年に海へのプラスチックごみ流出ゼロ」の目標への合意を目指し、連日報道されている。

このような国際社会を巻き込んだ政府の動きの背景には、全国務大臣を構成員とする「持続可能な開発目標（SDGs）推進本部」が平成 28 年（2016 年）5 月 20 日 閣議決定され、政府によって設置されたことが関係している。また、同年 12 月 22 日に SDGs 推進本部が決定した「持続可能な開発目標（SDGs）実施指針」の具体的施策には、「ESD（持続可能な開発のための教育）・環境教育の推進」が明記され、「2020 年度から開始される新しい学習指導要領に基づく教育課程の改善・充実や、学校現場で活用される教材の改善・充実に推進する」と記載された。

改訂学習指導要領の前文に「これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。」と明示された。このことから、今後の社会科教育には **SDGs の視点を持ち、地球規模の諸課題や地域課題を解決しようとする態度（Think Globally, Act Locally）** など、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことが求められているといえる。

（2）子どもと教師

事前アンケートによると、本学年生徒の 9 割に及ぶ生徒が、話し合い活動に対して肯定的な意見を持っており、活動の際に自分の意見を積極的に相手に伝えることができる。そこで、平素からペアやグループ学習を意図的に組み、自他の意見を伝え合い、考えを深める学習を行なっている。また、世界の出来事に興味や関心を持つ生徒も約 9 割いた。SDGs の 17 の目標についてどの項目について関心が高いのか調査したところ、世界的な視野で物事を捉える項目に関心が高いことから、グローバルな視点で物事を見ようとする生徒が多いことが分かる。

| | | |
|-----------------|------------------------------------|-----------------|
| 10 人や国の不平等をなくそう | 1 貧困をなくそう | 16 平和と公正をすべての人に |
| 3 すべての人に健康と福祉を | 6 安全な水とトイレを世界中に | 2 飢餓をゼロに |
| 4 質の高い教育をみんなに | * SDGs の 17 の目標に対する事前アンケートで関心が高い項目 | |

他にも、環境問題に対する具体的な取り組みについて質問すると、多くの生徒がエコバックで買い物をしたり、ゴミの分別を行なったりしていた。マイクロプラスチックについて知っている生徒も 3 割おり、中には砂丘での海岸清掃に参加したことがある生徒も数名いるなど、環境問題に対する家庭での意識の高さが伺える。そこで、本単元では SDGs の視点で世界や日本の諸問題について、課題解決のための具体的な行動を考えさせることで、生徒の興味関心を高め、社会的事象を多面的・多角的に考察し、理由や根拠を示しながら述べていく「やりくり」の力を育てる活動を設定した。

①話し合い活動は好きだ

| | | | |
|-------|---------|------------|---------|
| 当てはまる | 少し当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 55% | 37% | 7% | 2% |

②世界の出来事に興味や関心がある

| | | | |
|-------|---------|------------|---------|
| 当てはまる | 少し当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 45% | 44% | 10% | 2% |

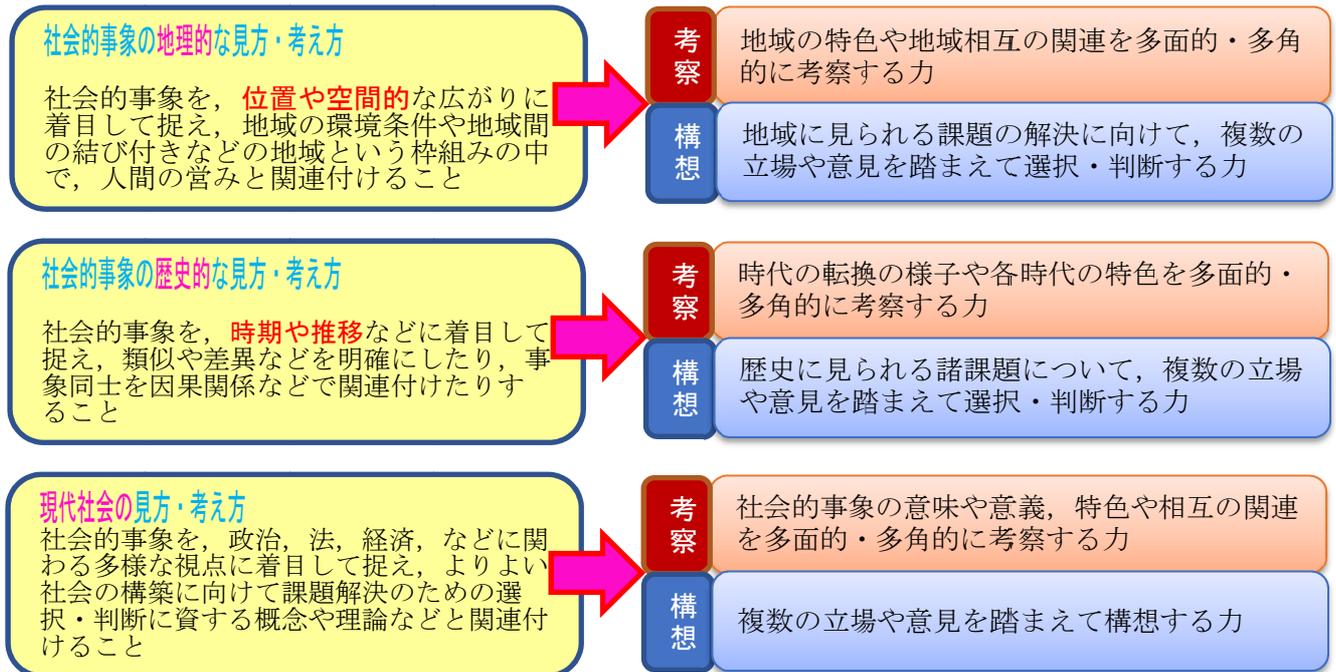
③環境問題に対して関心がある

| | | | |
|-------|---------|------------|---------|
| 当てはまる | 少し当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 33% | 56% | 9% | 2% |

④「マイクロプラスチック」とは何か知っている

| | | | |
|-------|---------|------------|---------|
| 当てはまる | 少し当てはまる | あまり当てはまらない | 当てはまらない |
| 12% | 17% | 17% | 54% |

そこで、社会的な見方・考え方を働かせた例として提示された**考察**・**構想**をもとに、授業を組み立てることにした。



(4) 協力団体とコラボした授業づくり

指導にあたり、**一般社団法人 Think the Earth** が主催している **SDGs for School** の協力をいただき、『未来を変える目標 SDGs アイデアブック』を 40 冊提供していただいた。この単元ではアイデアブックを毎時間生徒に配布して、「今日の学習は SDGs の 17 のどのゴールに関係していたのだろう」と問い、それぞれの目標に対するさまざまな取り組みを紹介した。

また、**鳥取砂丘ビジターセンター**の協力をいただき、平成 31 年 3 月 25 日～4 月 21 日に開催された「山陰海岸 海ごみを知ろう ～山陰海岸にはどんなものが流れ着くのかな～」で使用されたパネルを借りて本時は使用する。

最後に、学習のまとめとして、落語家による「海の温暖化とマイクロプラスチックごみ問題」の出前授業を開催する予定である。これは、**日本財団**が推進する「**海と日本プロジェクト**」の取り組みとして、日本の伝統芸能である落語を通じて海洋問題について考える「**海の親子寄席プロジェクト**」を活用した取り組みである。本学年の保護者と生徒がともに環境問題について学ぶ機会をつくり、SDGs の取り組みについて関心を持っていただきたいと考えた。



3 単元を貫く目標

地球市民として世界や日本の諸問題に関心を持ち、SDGs の視点で課題解決に向けて主体的に考える。

4 指導計画 (全8時間)

| 配当 | 学習名 | 目標 | SDGs について 関連する 17 のゴール |
|-----------|---------------------------|---|---------------------------|
| 第1時 | 持続可能な社会を考える | SDGs について関心を持ち、活動の意味や、取り組みの内容を理解する。  | |
| 第2時 | 世界の資源・エネルギー | 世界の資源・エネルギーの生産や消費の現状や課題を理解させるとともに、再生可能エネルギーの活用について考える。  | |
| 第3時 | 日本の資源・エネルギーと電力 | 日本における資源の有効活用や持続可能な社会の実現に向けてのエネルギー活用について考える。  | |
| 第4時 | 日本の農業・林業・漁業とその変化 | 日本の農業・林業・漁業の特色に関心を持ち、持続可能な第1次産業にするための課題解決を多面的・多角的に考察する。  | |
| 第5時 | 日本の工業とその変化 | 日本の工場の立地が変化する理由や企業が海外に進出する理由を多面的・多角的に考察し、持続可能な産業について考察する。  | |
| 第6時 | 日本の商業・サービス業 | さまざまな資料から、商業やサービス業での成長分野を読み取り、持続可能な第3次産業についての取り組みを理解する。  | |
| 第7時 | 世界と日本の交通・通信網 | 交通網や通信網の発達により起きた結びつきの変化を理解し、日本と世界との持続可能な結びつきについて適切に表現する。  | |
| 第8時 本時 | SDGs の視点でマイクロプラスチック問題を考える | 山陰海岸で見つけた漂流物から、持続可能な社会にするための課題解決を多面的・多角的に考察する。  | |

なお、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業の組み立てを行うために、独立行政法人教職員支援機構による「主体的・対話的で深い学びのための手立て」分類表をもとに指導案に明記した。

独立行政法人教職員支援機構による「主体的・対話的で深い学びのための手立て」分類表

| 主体的な学び | | 対話的な学び | | 深い学び | |
|---|-------------|---|----------------|---|----------------|
|  | 興味や関心を高める |  | 互いの考えを比較する |  | 思考して問い続ける |
|  | 見通しを持つ |  | 多様な情報を収集する |  | 知識・技能を習得する |
|  | 自分と結びつける |  | 思考を表現に置き換える |  | 知識・技能を活用する |
|  | 粘り強く取り組む |  | 多様な手段で説明する |  | 自分の思いや考えと結びつける |
|  | 振り返って次へつなげる |  | 先哲の考え方を手掛かりとする |  | 知識や技能を概念化する |
| | |  | ともに考えを創り上げる |  | 自分の考えを形成する |
| | |  | 協働して課題解決する |  | 新たなものを創り上げる |

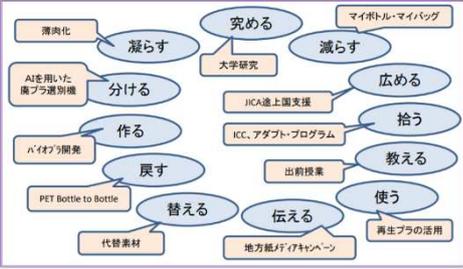
5 本時の学習

(1) 本時目標

山陰海岸で見つけた漂流物から、持続可能な社会にするための課題解決を多面的・多角的に考察する。

【思考・判断・表現】

(2) 学習過程

| | 学習活動 | ○主な発問・予想される生徒の反応 | ・留意点 ◎評価 【観点】 □手立て |
|-----|---|---|--|
| 導入 | 1. 山陰海岸で見つけた漂流物の内訳を知る。 | ○山陰海岸にはどんな物が流れ着くのだろう。 ・外国から来たゴミ，漁具，プラスチック，ビン，木材 | ☑ 身近な海岸に流れ着く漂流物を知ることで，興味や関心を高める。  |
| 考察 | 2. プラスチックごみをもたらす海洋汚染の現状を知り，問題点を考える。 | ○問題点は何か考えよう。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">2050, 海のプラスチックごみが，魚の量を上回る</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">マイクロプラスチックがもたらす人体への影響</div> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・日本を含め，世界各国がごみを出して（捨てて）いる。 ・プラスチック製品を再利用していない。 ・買い物袋を有料にしていない。 </div> | ・個人での思考後，ペアで意見交換する。 ・プラスチックが海を漂う現状を地図で確認し， 空間的な広がり を認識する。 ・ペットボトルが自然界で分解される年月を予想させ， 時間的な経過 を認識する。 深 海洋汚染の資料をもとに，解決策を考える。  ◎問題点を多角的に考えることができる。【思考・判断・表現】 |
| 構想 | 3. プラスチックと賢く付き合う人間活動の持続的発展について多面的・多角的に考える。  | <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center; font-weight: bold;">持続可能なプラスチック利用を考えよう</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> <p>自然や人体への悪影響</p>  <p>14 海の豊かさを保たろう</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>プラスチックがもたらす恩恵</p>  <p>12 つくも責任 つかう責任</p> </div> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p> </div> <div style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>持続可能なプラスチック利用</p>  </div> | ・思考したことをもとに，グループでもって考えを創り上げる。 対 互いの考えを比較しながら，ともに考えを創り上げるよう，ホワイトボードで共有を図る。   深 思考を可視化しながら自分の考えを形成しやすくするために，Yチャートを用いる。  ・再資源化のために輸出されたプラスチックの現状（マレーシアで野積みされたプラスチックごみ）にもふれる。 ◎海の豊かさへの当事者の課題意識やプラスチックがもたらす恩恵をもとに，持続可能なプラスチック利用を多面的・多角的に考え，選択・判断することができる。【思考・判断・表現】 |
| まとめ | 4. 単元のまとめをする。  持続可能な社会の実現 | ○SDGs を学んで，今後あなたは世界や日本の諸問題についてどのように関わっていきたいですか。 ・世界の環境問題について調べて，身近なことから取り組んでいきたい。 | ・「Think Globally, Act Locally」の考え方について伝える。 ☑ SDGs アイディアブック活用し，今後も世界や日本の諸問題について問い続けていくきっかけとする。  |

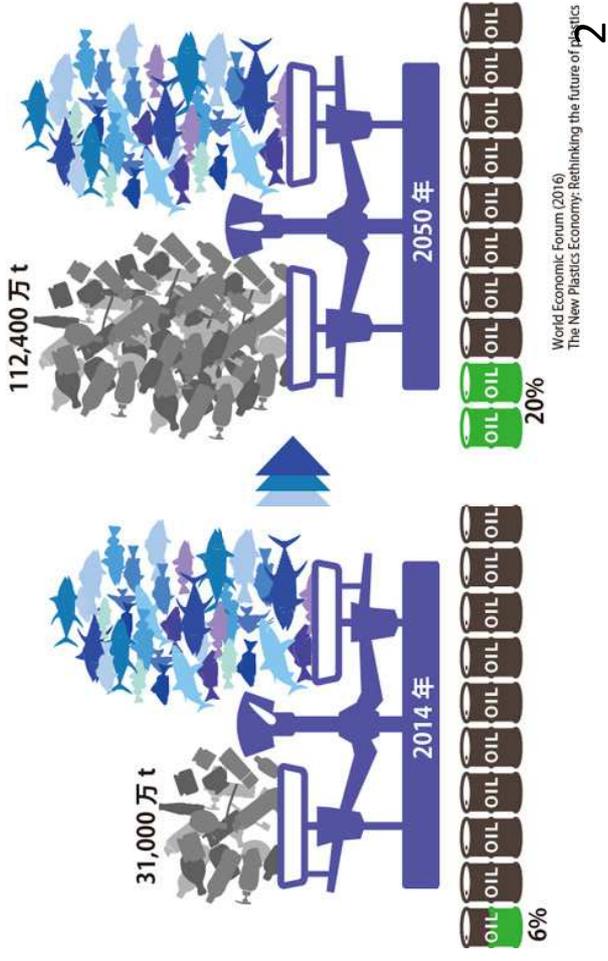
SDGsの視点で マイクロプラスチック問題を考える

学習課題：持続可能な社会にするための課題解決を考えよう



組 番名前

2050年 プラスチック 魚の量



海ガメの鼻にささったストロー

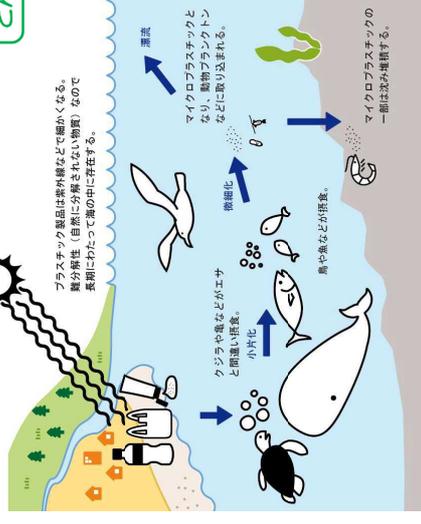


マイクロプラスチック

- 海に流れ出したプラスチックは、紫外線や海の流れの中で粉々に砕ける。
- 5mm以下にまで小さくなった場合は「**マイクロプラスチック**」と呼ばれる。
- 東京湾で釣ったカタクチイワシ64尾のうち49尾からマイクロプラスチックが見つかっている。

POINT!

海の中にマイクロプラスチックが増えると、
どんなことが起こるのだろうか。



写真：
日本列島から1000km離れた太平洋上で採取したマイクロ
プラスチック（出典：気象庁）

